

豊川市民病院

キャリア支援センター

あなたのキャリアデザインを
サポートします!



Jump

Step

Hop



豊川市民病院

◆ キャリア支援センターとは？

平成29年4月に、医師・診療技術職・看護職・事務職など全職種を対象とした横断的組織として、キャリア支援センターを設置しました。人材育成、人材確保に関する業務を総合的に支援していきます。なお、業務を円滑に行うために、医師を始め各部門の職員による多職種協働体制としています。

キャリア支援センターの主な業務

人材育成

当院の将来を担う「良い医療人の育成」に、病院全体として取り組みます。

- ① 初期臨床研修医及び新専門医制度に基づく専攻医の研修運営
- ② 「豊川市民病院人材育成計画」に基づいた計画的な人材育成の推進
- ③ 「キャリア形成総合支援制度」の活用による資格・免許取得、研修参加等のバックアップ

人材確保

地域の中核病院として「良い医療の提供」を継続的に行うことができるよう、有為な人材の確保に努めます。

- ① 若手医師(初期臨床研修医、専攻医)確保のための積極的な募集活動
- ② 医師以外の各職種の募集支援

◆ 豊川市民病院人材育成計画

概要

院内の全職種に係る人材育成についての考え方、手法を明確化し、病院全体が一体となって人材育成に取り組むことができるよう、人材育成方針、求められる職員像、人材育成計画、キャリア形成総合支援制度などを盛り込んでいます。

人材育成方針

「信頼される医療の提供を通じて、地域住民の健康づくりに貢献する」という当院の基本理念を踏まえて、今後、少子高齢化の進行、高齢者医療の必要性の増大、医療の高度化、複雑化という環境の中で、「救急医療」「高度専門医療」など、当院の急性期病院としての役割を果たすことができるよう、この人材育成計画に基づいて、職員の専門性を高める系統的な人材育成を推進します。

職員全体に求められる職員像

- 市民病院の職員として、基本理念や基本方針の内容を踏まえて、適切に対応することができる職員
- 職員が自らのキャリアデザインを構築する中で自己研鑽の意識を持ち、地域住民が必要とする安全・安心そして信頼される医療の提供を実現するため、知識と技術の向上を図るとともに、後輩、部下の人材育成に尽力できる職員
- 接遇の意識を高く持ち、親切・丁寧な対応や分かりやすい説明を行うことで、患者・家族への満足と信頼を得ることができる職員
- チーム医療・協働の意識を持ち、職員間の連携を図りながら職務を遂行する職員
- 病院経営を意識しながら、経営安定化を踏まえた職務を遂行する職員

豊川市民病院キャリア形成総合支援制度

概要

- 職員自らが成長意欲や学ぶ意欲を持ち、自己成長のために努力できるよう、一定の要件に該当する場合に、予算の範囲内で経費の支給、補助金の交付を行います。
- 「専門的資格の取得支援」「職員の自学支援」「高度な医療知識・技術の習得支援」「若手医師の専門資格取得支援」のために、各支援メニューを設けます。
- 各支援メニューの運用は、補助金交付要綱に基づいて行います。また、補助金には上限額が設定されています。

1 専門的資格の取得支援

● 長期資格免許等支援制度

- 一定の資格免許取得のために、外部研修機関で教育を受けるための制度
- 対象は、職場を離れる期間が1ヵ月以上となる一定の資格免許

● 資格免許等更新手続補助金

- 所属長の認める資格免許等を更新する職員を支援する制度（公務外で取得したもの）
- 対象職員は、診療技術職、看護職及び病院採用行政職

2 職員の自学支援

● 自己啓発推進費補助金：補助対象経費の1/2以内を補助

- 補助対象となる資格免許を取得するために、自学する職員を支援する制度
- 対象職員は、診療技術職、看護職及び病院採用行政職

● 学術論文投稿支援補助金：補助対象経費の1/2以内を補助

- 研究活動により学術論文を学術雑誌等に投稿する職員を支援する制度
- 対象職員は、医師、診療技術職及び看護職

● 学会参加等支援補助金：補助対象経費の1/2以内を補助

- 一定レベル以上の資格を有し、公務外で学会参加、発表等を行う職員を支援する制度
- 対象職員は、診療技術職、看護職及び事務職

3 高度な医療知識・技術の習得支援

● 国内外留学等支援補助金：補助対象経費の1/2以内又は一定額まで補助

- 公務外で、国内外の先進医療機関等での研究・研修、一定の要件に該当する国内での社会人大学院又は社会人大学で修学する職員を支援する制度
- 対象職員は、医師、診療技術職、看護職及び事務職

4 若手医師の専門資格取得支援

● 基本領域専門医取得支援補助金：補助対象経費全額又は1/2以内を補助

- 当院で一定期間の専門研修プログラムを修了し、基本領域専門医資格を取得する当院の若手医師を支援する制度

医師



● 求められる職員像など



当院は東三河の中核病院の一つとして豊富な症例を背景とする中で、大学卒のフレッシュな研修医、歯科研修医を豊富に受け入れております。昨今の医療の急激な進歩、医師の働き方改革などの厳しい医療情勢の中で、当市民病院の医師・歯科医師は地域社会に常に最善の医療を提供できるよう求められております。キャリア支援センターではそのニーズにこたえるべく、救急症例のカンファレンスを定期的に行い、救急から普段の診療にわたる横断的なセミナーも多数開催し、研修医をはじめとする若手医師の育成に努めております。

また、2018年度より開始された3年次以降の新研修プログラムもキャリア支援センターを中心に専攻医がより早く専門医になれるよう、強力にサポートしておりますので、ご安心ください。

● 支援している資格免許

- 新専門医制度に基づく基本領域専門医
- 学術論文の投稿
- 先進医療機関等での研究・研修、社会人大学院での医学博士取得

◆ 利用できるキャリア形成総合支援制度

● 学術論文投稿支援補助金

研究活動により学術論文を学術雑誌等に投稿する職員を支援する制度

● 国内外留学等支援補助金

公務外で、国内外の先進医療機関等での研究・研修、一定の要件に該当する国内での社会人大学院又は社会人大学で修学する職員を支援する制度

● 基本領域専門医取得支援補助金

当院で一定期間の専門研修プログラムを修了し、基本領域専門医資格を取得する当院の若手医師を支援する制度

◆ 初期臨床研修医・専攻医のキャリア形成

初期臨床研修医 研修DATAなど(医科・歯科)



● プログラムの特徴

当院の医科臨床研修プログラムの最大の特徴は「充実したプログラム内容」と「優良な福利厚生・労働環境」を併せ持つ点です。救急外来患者数は年間約1万8,000例近く(含む救急搬送・CPA)、しっかりしたBack Up/Feed Back体制の下、ほとんどの症例で初期臨床研修医約20名がFirst Touchを行います。研修医1人当たり2年間で約1,100~1,500例の経験値です。プライマリ・ケアにおいては「量が質を担保」します。これに加え、現在はAcademic Job・病棟管理の充実にも力を注いでいます。専門研修も見据え、初期臨床研修期間中に総合診療科における病棟患者管理の重点的研修などを取り入れています。

また、歯科医師臨床研修プログラムでは、歯科医師としての幅広く豊かな人格を養い、プライマリ・ケアへの理解を深め、患者を全人的に診ることができる基本的診療能力を身に付けます。

● 当院が求める人物像 「気は優しく力持ち:優しい心と高度な臨床能力を併せ持つ」を具体化できる志の高い人

● 研修医の出身大学

医科:名古屋市大、藤田医大、愛知医大、秋田大、大阪医大、近畿大、岐阜大、高知大、浜松医大、三重大、宮崎大、広島大学、東京慈恵会医科大学、昭和大学、川崎医科大学 等

歯科:愛知学院大、朝日大等

● 研修医数 医科:約20名(各年次約10名)、歯科:2名(各年次1名)

初期臨床研修医

当院の特徴としましては、症例の多さがあげられます。豊川市民の多くが頼りにして来院される病院であること、また、東三河の北部地域からも多くの方を受け入れていることから、特定の分野に偏ることなく、幅広い分野の疾患を学べる環境です。

当院の人材育成などの支援体制は、指導医制の科と、症例を中心として学ぶ科がありますが、どの科であっても手技や管理など、多くのことを学ぶことができます。また、勉強会を定期的に行うだけでなく、同期と研修医室でワイワイと症例について語り合うことも自らの学びの場になっていると感じています。

研修を通して感じるのは、病院全体で研修医を育てていこうという意識があり、温かい雰囲気ですっきりと学ぶことができます。研修先を探されている方は、ぜひ、当院の見学にお越しください。

専攻医

● 当院の特徴

豊川市及び豊川以北の地域の中核病院であり、救急疾患から慢性疾患まで豊富な症例がある総合病院です。また、名古屋市立大学や藤田医科大学などとも連携し、若手医師の育成にも励んでいます。病院は、平成25年5月に現在地に新築移転しましたので、新しい機器と現在の医療にマッチした病院設計で、診療もやりやすくなりました。キャリア支援センターのもと、図書の整備、e-journalの整備もできており、研修しやすい環境が整っています。



豊川市民病院内科専門研修プログラム

研修目標

総合内科医としてのGeneral Mindを兼ね備えた各専門領域のspecialistを養成すること

研修期間

基幹病院での研修:1年以上
地域密着型研修病院での研修:6ヵ月以上
合計で3年間

豊川市民病院総合診療専門研修プログラム

研修目標

総合診療医として様々な場面で活躍できること

研修期間

基幹病院での研修:1年以上
関連施設での研修:1年以上
合計で3年間

豊川市民病院救急科専門研修プログラム

研修目標

救急科医として様々な場面で活躍できること

研修期間

基幹病院での研修:1年以上
関連病院での研修:1年以上
合計で3年間

● 豊川市民病院専門研修プログラム専攻医数 内科8名、救急科1名(2023年4月現在)

看護部門



● 求められる職員像など



当院は自律した看護師の育成を目指しています。医療チームの中にあって看護の役割「病人であれ、健康であれ、健康な回復あるいは平和な死に資するような行動を援助する」責任を果たすことができる人材を育成します。そして、研修・研究を通じて看護師の資質向上並びに看護の質向上を図ります。自律した看護師とは、自分の行った行為に対して責任がとれる看護師であり、患者や多職種と良好なコミュニケーションが図れる人です。看護の振り返りを行うことが成長の一歩であり、成長する喜びを一緒に分かち合いたいと思います。

● 支援している資格免許

- 認定看護管理者、認定看護管理者教育課程各レベル(ファースト・セカンド・サード)修了
- 専門看護師
- 認定看護師
- 特定行為に係る看護師の研修制度修了
- 臨地実習指導者
- 新人看護職員実地指導者研修修了

◆ 利用できるキャリア形成総合支援制度

● 長期資格免許等支援制度

一定の資格免許取得のために、外部研修機関で教育を受けるための制度

● 自己啓発推進費補助金

補助対象となる資格免許を取得するために、自学する職員を支援する制度

● 学術論文投稿支援補助金

研究活動により学術論文を学術雑誌等に投稿する職員を支援する制度

● 学会参加等支援補助金

一定レベル以上の資格を有し、公務外で学会参加、発表等を行う職員を支援する制度

● 国内外留学等支援補助金

公務外で、国内外の先進医療機関等での研究・研修、一定の要件に該当する国内での社会人大学院又は社会人大学で修学する職員を支援する制度

● 資格免許等更新手続補助金

所属長の認める資格免許等を更新する職員を支援する制度(公務外で取得したもの)

◆ 看護職のキャリア形成

当院では、自己のレベルアップに努める職員を積極的にサポートしています。看護部門において、当院の制度を利用してキャリア形成を図り、看護の現場での活動内容を紹介します。

認定看護管理者教育課程

ファーストレベル研修を受講し6年がたとうとしています。受講後は看護管理に対する意識や心構えが変化してきました。研修で学んだことを活かし常に管理者として質の高い看護を提供できる人材育成や環境を整えていくことを意識し組織運営を行っています。また人、物、金を動かしPDCAサイクルを実施しています。今年度より救命救急センターに配属になり一般病棟とは違う運営について学習しながら問題意識を持ち職場管理に取り組んでいます。

(認定看護管理者教育課程修了Mさん)

認知症看護認定看護師

高齢者の5人に1人が認知症になる時代と言われ、認知症患者は増えています。私自身、認知症患者の対応に悩み、看護の質を上げる目的で認定看護師教育課程を受講しました。現在は、身体症状や心理的不安を抱えている認知症患者に対して、せん妄予防・対策の為の環境調整や睡眠マネジメントを病棟看護師と共に実践しています。

認知症患者の言葉にならない思いや行動の意味を生活背景などから理解して関わるように努めています。

(認知症看護認定看護師Iさん)

がん性疼痛看護認定看護師

職場や家族の協力を得て認定看護師教育課程を受講しました。現在は、外科病棟での看護業務と並行して認定看護師の活動をしています。当院はがん診療連携拠点病院となり、より質の高いがん看護の提供が求められています。それに答えるためには、がん患者さんと真摯に向き合い、患者力を高めていけるような関わりが大切だと考えます。今後も多職種と協働し全人的苦痛の緩和、倫理的な問題の解決に努めていきたいと思ひます。

(がん性疼痛看護認定看護師Tさん)

臨地実習指導者講習会

研修では座学での学習をはじめ、実際に校内実習を行うなど貴重な体験をさせていただきました。その中でも時代の流れとともに学生の学習方法、指導方法も変わっていることを学びました。研修後は学生がよりよい環境で実習ができるように、まず私たち看護師が看護を楽しんで行くことを意識しています。今後、看護師間だけでなく、学生・引率教員ともコミュニケーションを図りながら効果的な実習指導が行えるように取り組んでいきたいです。

(臨地実習指導者講習会修了Yさん)

特定行為に係る看護師の紹介

厚生労働省が推進している「特定行為研修」を受講している看護師を紹介します。この研修は、認定看護師の能力を強化し活動の場を広げることにより、認定分野の特徴を活かした専門性の発揮と様々なニーズに応えるための看護師を育成するためのもので、研修受講後は当院の診療の現場において、これまで以上の活躍が期待できます。

特定看護師(糖尿病看護認定看護師)

私は、より安全にタイムリーな看護・医療の提供ができるように2018年に特定行為研修を受講しました。医師から依頼を受け病棟または外来で、特定行為「インスリン投与量の調整」を実践し患者さんの病状に応じた迅速なインスリン調整が可能となりました。血糖コントロールが必要なあらゆる科の患者さんに対し、臨床推論を活用したアセスメントをおこない患者さんに寄り添った指導を実践しています。糖尿病の発症・進行予防に繋がるように今後も看護・医療の提供を考えています。

(特定看護師Kさん)

診療技術部門



● 求められる職員像など



医療技術の進化は目覚ましく、技術職は常に先進技術を習得する必要があります。診療技術局では、このような先進技術の習得に必要な支援や人材育成は、各部門それぞれで行われていましたが、キャリア支援センターの開設により病院全体で支援、育成を行う体制となりました。これによりきめ細やかで、より高いレベルの医療技術の習得や、より良い医療人の育成が可能となり、より良い医療の提供につながっていくと期待しています。

薬局

薬局では、患者さんの立場で考えるとともに、薬剤師としてどうあるべきかを考えて判断・行動でき、誠意をもって対応できる職員を育成しています。薬のエキスパートとして病院内のみならず地域との連携をとり、医療チームの一員として薬物治療ならびに医療安全に貢献することが求められます。そのためには、幅広い分野に関する基礎的な知識・技術を身につけ、最終的には特定分野のスペシャリストになることが必要だと考えます。向上心を忘れずに自己研鑽に励むこと、また多職種との連携を図りながら問題解決できる職員が求められます。



臨床検査科



当科の基本方針は「迅速・正確・自己研鑽」です。手順を守り正確にしかも手早く業務を遂行することが望まれます。常にTPOを意識し、臨床現場のニーズに素早く対応することも求められる職場の特性だと考えます。

また、日々進歩する検査技術に対応するために常に向上心が求められます。最近の臨床現場ではチーム医療ということが多く実践されていますが、臨床検査においても、ICTやNST、糖尿病チームなど多くの職種と連携して患者治療に当たることもあり、そのためにはコミュニケーション力や協調性も望まれる職員像の一つだと考えます。

栄養管理科

近年、栄養の重要性が再認識され、管理栄養士の主業務はベッドサイドへと移行しつつあります。治療を目的として栄養管理を行う場合には、患者さんに対して総合的に判断する能力やチーム医療の一員として知識・技能を発揮すること、そして、相手の立場を理解した良好なコミュニケーションなどが必要となります。そのためには、管理栄養士としての知識・技能のみならず、優れた知見と豊かな人間性が求められます。



臨床工学科



臨床工学科では、医療機器に関する専門の知識と技術の習得を図り、機器の保守点検を適正に実施し、安全・安心な医療を提供することができること、後輩・部下の人材育成に尽力できること、患者さんやそのご家族と良好な人間関係を築くことができるよう、職員を育成します。また、チーム医療の役割を認識し、他職種との連携を図りながら専門性を活かした高度な臨床技術の提供ができること、医療機器の管理拡大・有効活用を推進し経費節減への取り組みを意識しながら職務遂行できることも重要な要素であり、これらのことも職員に求められます。

リハビリテーション技術科

当科は急性期病院として超早期リハビリテーションを提供するとともに、市内介護予防事業等に参加し地域住民への貢献に努めています。職員は知識・技術の向上を図るよう、日々の臨床スキルを磨くとともに、協働する多職種や患者・家族に信頼される医療職であるべく、良好な人間関係を構築できることが必要です。公私の調和が取れ、チーム医療の一員としての自覚と「くらし」を守る意識を持った職員を求めています。



放射線技術科



放射線技術科では、質の高い画像診断・放射線治療が提供できるよう常に向上心を持って自己研鑽に励み、患者さんが安全・安心に検査が受けられるよう、やさしく思いやりのある医療サービスを提供したいと考えます。また、チーム医療に貢献するために協調性を持ち、職場の仲間や他職種スタッフらと円滑にコミュニケーションが取れること、そして、業務改善・問題意識に前向きで、人材育成においては部下や後輩の適性に応じた指導ができ、チームワークを大切に放射線技師を目指しています。

診療支援科

歯科衛生士(口腔外科)、視能訓練士(眼科)、公認心理師(内科・精神科等)、作業療法士(精神科)が、各診療科で専門性を生かした職務に従事しています。高度な技術や指導力、検査技術を習得するため、日々研鑽する向上心が求められます。また、患者さんに対する親身な対応やコミュニケーションスキル、誠実性、院内における協調性も望まれる職員像の一つだと考えます。



● 支援している資格免許

- 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師
- 認定輸血検査技師
- 細胞検査士
- NST専門療法士(専従)
- 心血管インターベンション技師
- 透析技術認定士
- 3学会合同呼吸療法認定士
- 心臓リハビリテーション指導士
- 放射線治療品質管理士
- 医学物理士
- 日本病態栄養学会病態栄養専門管理栄養士
- 日本糖尿病療養指導士
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

◆ 利用できるキャリア形成総合支援制度

- 長期資格免許等支援制度 一定の資格免許取得のために、外部研修機関で教育を受けるための制度
- 自己啓発推進費補助金 補助対象となる資格免許を取得するために、自学する職員を支援する制度
- 学術論文投稿支援補助金 研究活動により学術論文を学術雑誌等に投稿する職員を支援する制度
- 学会参加等支援補助金 一定レベル以上の資格を有し、公務外で学会参加、発表等を行う職員を支援する制度
- 国内外留学等支援補助金 公務外で、国内外の先進医療機関等での研究・研修、一定の要件に該当する国内での社会人大学院又は社会人大学で修学する職員を支援する制度
- 資格免許等更新手続補助金 所属長の認める資格免許等を更新する職員を支援する制度(公務外で取得したもの)

◆ 診療技術職のキャリア形成

診療技術局で資格取得、研修参加など自己のキャリア形成に励み、現場の業務に活かしている職員をご紹介します。

認定輸血検査技師

輸血は一般的な治療法の一つですが、一種の移植であり様々な副作用を伴います。したがって、安全に輸血療法を実施するには、幅広い知識・技術と臨床側との連携が不可欠です。また、いつ緊急で輸血が必要となるかもわからないため、携わる技師すべてが同じように対応できるマニュアル作りも重要となります。チーム医療の一員として、臨床検査科だけではなく病院全体で輸血療法の質を向上させていけるよう、これからも研鑽を積んでいきたいと思っております。

事務部門



● 求められる職員像など



事務部門には、目まぐるしく変化する医療制度に迅速かつ的確に対応することが求められています。このため、職員は病院運営に必要な知識の取得・向上に努め、他部署・他職種との緊密な連携・協働により、医療職の業務支援を担うとともに、自らが主体となって多面的に病院事業をマネジメントする必要があります。常に向上心を持ち、改善に取り組む創意工夫や努力ができ、企画力や発信力を身につけることが重要となってきており、このスキルの向上に取り組んでいきます。

● 支援している資格免許

- 診療情報管理士
- 医療情報技師
- 医療経営士
- 診療報酬請求事務能力認定試験
- 介護支援専門員
- 施設基準管理士
- 精神保健福祉士
- 福祉住環境コーディネータ検定試験

◆ 利用できるキャリア形成総合支援制度

● 自己啓発推進費補助金

補助対象となる資格免許を取得するために、自学する職員を支援する制度

● 学会参加等支援補助金

一定レベル以上の資格を有し、公務外で学会参加、発表等を行う職員を支援する制度

● 国内外留学等支援補助金

公務外で、国内外の先進医療機関等での研究・研修、一定の要件に該当する国内での社会人大学院又は社会人大学で修学する職員を支援する制度

● 資格免許等更新手続補助金

所属長の認める資格免許等を更新する職員を支援する制度(公務外で取得したもの)

◆ 事務職のキャリア形成

事務部門では、業務上必要となる資格取得のために多くの職員が自学しており、また、診療情報管理士や医療情報技師の有資格者採用も行っています。各部署で活躍している4名の職員をご紹介します。

施設基準管理士

医療が安全、適切に行われるよう健康保険法に基づく診療行為について医療機関の機能、設備、人員、診療体制等の「施設基準」を厚生労働大臣が定めており、医療機関は地方厚生局に施設基準の届出、報告を行う必要があります。一方で、医療の進歩、人口構成、疾病構造の変化、医療ニーズの多様化により施設基準は近年複雑化しており、適切な届出・管理することが各医療機関の課題になっています。そのため、平成30年に創設された「施設基準管理士」を取得しました。資格取得時に得た知識を生かし、施設基準に関する課題に取り組んでいきます。

社会福祉士

私は現在、ソーシャルワーカーとして、患者さんご家族の抱える経済的・心理的・社会的問題に関するご相談を受け、社会復帰の促進を図る業務を行っています。日頃、患者さんが退院後に介護支援を受けることも多く、介護支援専門員(ケアマネジャー)の知識があれば、より円滑に相談に対応できると感じ、病院の制度を利用して資格取得の勉強を始めました。ケアマネジメントの専門性を生かし、罹患によって生活に不安を抱えた患者さんやご家族に寄り添った支援ができるよう頑張っています。

診療情報管理士

医事課の業務は幅広く、病院の運営や経営にも直結する職場です。診療情報管理士として学んだ医学や診療情報学を基に、他部署と連携しながら業務にあたっています。採用後も新たな知識の取得に毎日が勉強で、学びの絶えない日々を過ごしています。実務経験を積み重ね、少しでも早く先輩職員に追いつき、地域医療に貢献することが私のモチベーションです。

医療情報技師

医療情報技師として、院内の医療情報システムの管理・運用を担当しています。医療情報システムを的確に運用・維持していくには、情報面と医療面それぞれの専門知識が必要不可欠であり、この特異な医療情報システムを支えるために生まれたのが医療情報技師です。地道な作業が求められますが、医療の流れを支える重要な職務であると思っています。これからもシステム面から豊川市民病院に携わる医療従事者をサポートする形で、よりよい医療を提供できるよう務めていきます。



病院概要

- 所在地 ——— 〒442-8561 愛知県豊川市八幡町野路23番地
- 敷地面積 ——— 41,875.94㎡
- 建築面積 ——— 10,900.00㎡(病院棟)
- 延床面積 ——— 44,670.00㎡(病院棟)
- 構造 ——— 鉄骨造(免震構造)9階建(病院棟)
- 駐車場 ——— 平面駐車場355台／立体駐車場802台
- 病床数 ——— 501床(一般428床、精神65床、結核8床)



● 基本理念

信頼される医療の提供を通じて、地域住民の健康づくりに貢献する。

● 基本方針

当院ではこの基本理念を実現するために、以下の基本方針を掲げています。

- 心のこもった患者中心の安全で良質な医療を実践します。
- 地域の急性期中核病院として、救急医療の充実と高度・専門医療を推進します。
- 地域医療機関や保健・福祉機関との連携を深め、地域医療の向上を目指します。
- 人権に配慮した適切な精神科医療を実践します。
- 災害拠点病院として、災害時医療救護体制の充実を推進します。
- 健全な経営基盤の強化に努め、安定した病院運営を目指します。
- 医学・医療技術の研鑽と教育・研修により、医療の質の向上と人間性豊かな医療人の育成に努めます。
- 職員が誇りと意欲を持って働ける病院づくりに努めます。

● 診療科目

内 科	消化器外科	泌尿器科
呼吸器内科	心臓血管外科	産婦人科
消化器内科	脳神経外科	眼 科
循環器内科	乳腺・内分泌外科	耳鼻いんこう科
腎臓内科	小児外科	リハビリテーション科
脳神経内科	整形外科	放射線科
血液内科	形成外科	病理診断科
糖尿病・内分泌内科	精神科	救急科
外 科	リウマチ科	麻酔科
呼吸器外科	小児科	歯科口腔外科
	皮膚科	



当院での見学を希望される方は、電話又はメールで各所属にお問い合わせください。

TEL.0533-86-1111(代表)

初期臨床研修医・専攻医 (キャリア支援センター)	E-mail career@toyokawa-ch-aichi.jp
看護部門(看護局)	E-mail kango@toyokawa-ch-aichi.jp
診療技術部門 (診療技術局)	電話で各所属までお問い合わせください。

豊川市民病院 キャリア支援センター

〒442-8561 愛知県豊川市八幡町野路23番地
TEL.0533-86-1111(内線3411) FAX.0533-84-1327
E-mail career@toyokawa-ch-aichi.jp
URL <https://www.toyokawa-ch-aichi.jp>